

2019年度 発達障害医学セミナー

発達障害児(者)の 外科・感覚器症状の理解と対応



日時：2019年11月30日（土）・12月1日（日）

場所：青山学院大学

参加者：141名

コーディネーター：古荘 純一（青山学院大学教育人間科学部 教育学科 教授）

【プログラム】

(敬称略)

【11月30日(土)】

発達障害児の栄養管理 ～自閉スペクトラム障害 (ASD) 児の偏食を中心にして～
土岐 彰 (戸塚共立第2病院 顧問・TMG [戸田中央医科グループ] NST 推進部 特別顧問)

発達障害児の摂食特徴とその支援 -QOL 向上を目指して
向井美恵 (ムカイ口腔機能研究所)

聞こえてるのに聴いていない -聴覚過敏のある子どもへの対応
益田 慎 (県立広島病院小児感覚器科)

排尿機能 ～排尿の自立は自分をコントロールして社会に適応すること
家後理枝 (東京女子医科大学病院泌尿器科)

発達障害者の生殖機能, 婦人科疾患
竹内正人 (東京都立東部療育センター)

【12月1日(日)】

発達障害者に見られる視覚の問題 -理解とサポート
川端秀仁 (医療法人社団秀光会 かわばた眼科)

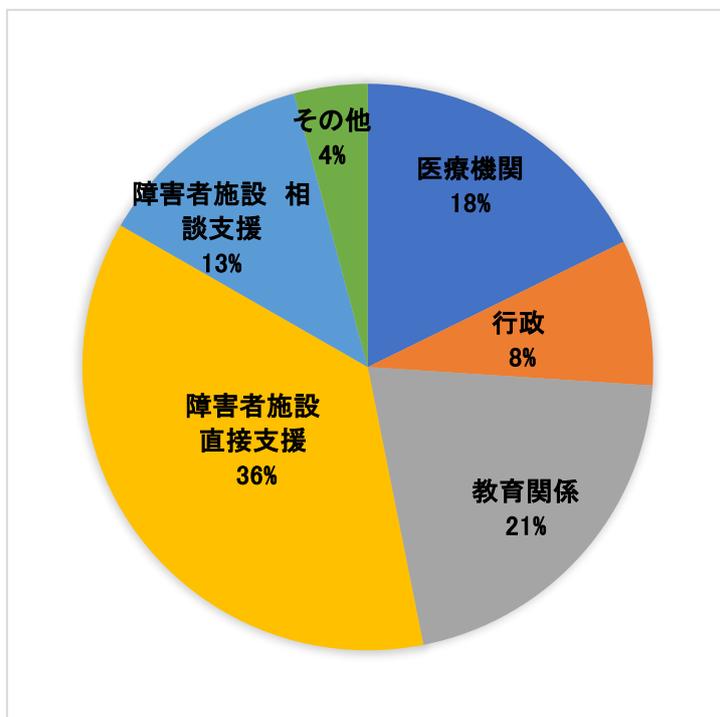
歯科医療を提供する上で注意していること
中村全宏 (東京都立東部療育センター)

発達障害者の理学療法: アップデート
瀬下 崇 (リハビリテーション エーデルワイス病院)

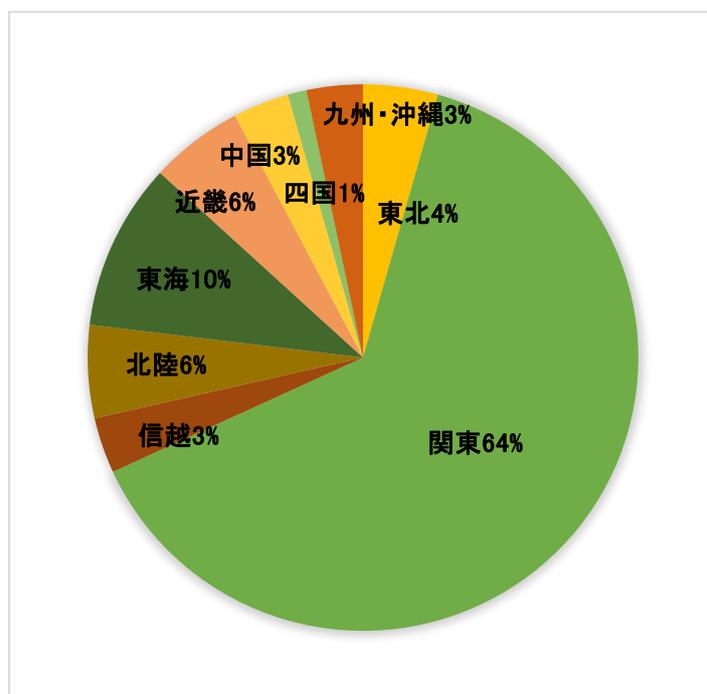
ICD-11 における発達障害の位置づけ
古荘純一 (青山学院大学教育人間科学部)

参加状況

現在従事されているご職業

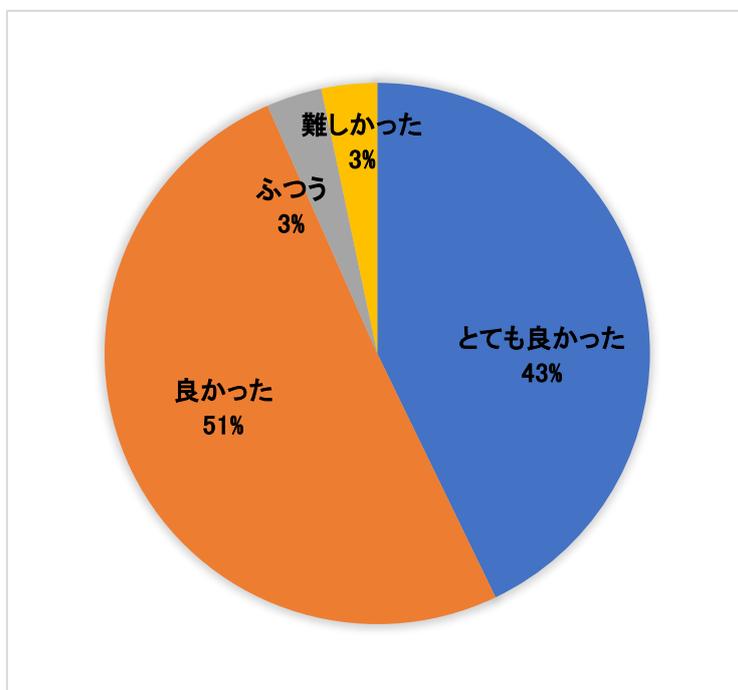


お住まいの地域

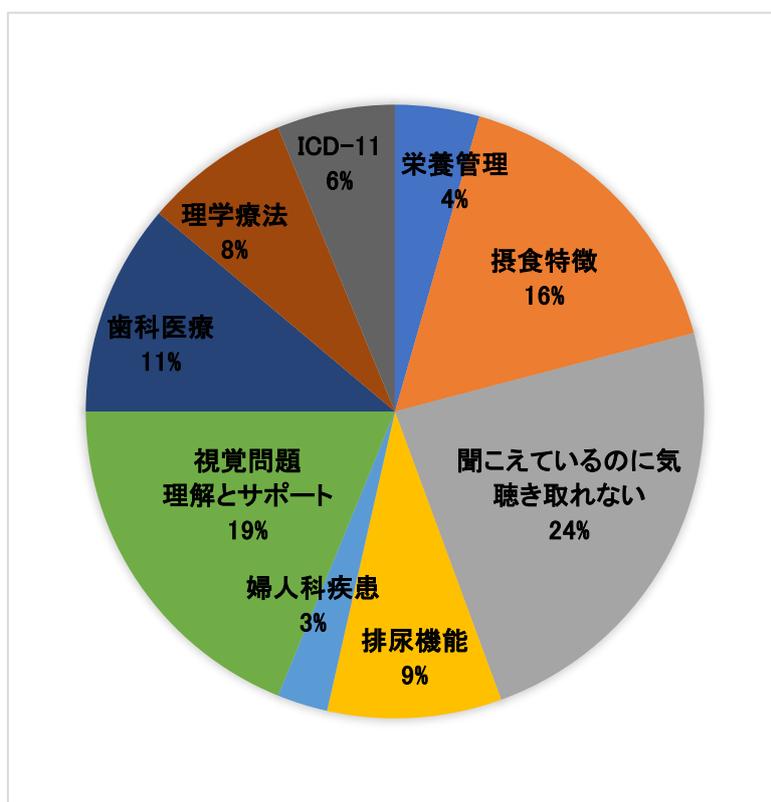


参加者アンケート

内容について



関心が高かった講演内容



参加者の皆様からの声

- ・発達障害のお子さんに対しての支援を行っていますが、まだまだお子さんの状態を広く確認していく必要性を強く感じました。
- ・発達障害児が日常生活を送っていく中で直面していく課題を医学的にとらえることで支援の幅が広がることが、理解できた。
- ・一領域ごとの時間は限られていたが、2 時間の研修で多岐にわたって学ぶことができ、有難かった。医療分野と療育が今後協力できるとさらによいと感じる。
- ・今回のセミナーのテーマは、様々な分野・立場からのお話をうかがうことができ、これまで意識してこなかった医療分野と連携することの大事さを感じました。ありがとうございました。
- ・取り上げられるテーマがいつも新しいことが多く、学ぶところが多いと感じています。今年の切り口も改めて心に留めるべきことがあって勉強になりました。今後も最新の情報を提供していただけることを期待しています。
- ・医学的観点を、実際に発達障害にかかわっている先生方から教えていただくことができ、とても勉強になりました。医学セミナーが継続して開催されるとよいと思います。
- ・これまで発達障害児の理解・支援に関する研修は多数受けてきたが、今回のように身体症状にフォーカスしたものが初めてであり、大変貴重な学びとなった。エビデンスがしっかりあるもの話は興味深い。

最後に

今回のセミナーにご参加、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

参加された皆様方から「医療との連携」について考えるきっかけになったという多くの声をいただきました。ありがとうございました。

なお、本セミナーの講演の内容は、日本発達障害連盟発行の「発達障害医学の進歩 32」に収録されています。